

カヤネット新聞

第4号

2011年10月10日(月)

編集長：金尾滋史
副編集長：畠佐代子

全国カヤネズミネットワーク
info@kayanet-japan.com



定価：カヤネズミへの愛、
priceless

カヤネット設立10周年へ

10月岡山市で記念フォーラム開催

全国各地から
会員が集結

全国カヤネズミ・ネットワーク(カヤネット)は2001年7月8日に設立されてから今年で設立10年を迎えることとなりました。この10年の間には多くの方々にかやネットの活動に参画して頂き、カヤマップの作成や全国各地での保全に関わる取り組み、講演、講座など会としての活動も充実してきました。これまでの皆様の御協力に感謝すると共に今後ともカヤネズミを中心とした各地域での保全活動、情報交換を通じて皆様に親しんで頂ける会となるよう努力をしていきます。

カヤネット多彩なメンバー達

カヤネットには現在30名を超える会員がいますが、そのメンバーの顔ぶれは非常に多彩です。自然保護に関わる会やNPOのメンバー、学生、会社員、イラストレーター、絵本作家、研究者など様々な職業や立場の方が参加されています。普段はカヤネットのメンバーはやりとりを数回観察しますが、年に数回観察会などで集まる機会があります。その中には会ってみたいさらには強烈なキャラだったという人まで。それぞれの分野で活躍されている方々がそれぞれの個性を交流することでカヤネットのメンバーは輝きを増しています。

「カヤネズミとカヤ原にちなんだ川柳コンクール」入選者発表!!

最優秀賞

茅の葉は
月の色なり

十六夜

広島県 益田耕三さん

カヤネットが今夏募集した「カヤネズミとカヤ原にちなんだ川柳コンクール」には合計68作品の応募がありました。厳選なる審査の結果、広島県在住の益田耕三さんの作品が最優秀賞を授賞されました。審査員から「茅の葉」というキーワードを

いれなくても、的確に今回のテーマを表しています。「まるで球巣自体が月の似姿のよう。そんな情景を想像しました。」と講評しました。授賞された益田さんはバードウォッチングの傍らでカヤネズミの巣を見つけることがあるそうで、「自然を守る目の輪を広げていくことを大切にしたい」とコメントしておられます。なお、その他の入選作品はカヤネットのホームページで公開されています。

全国カヤネズミ・ネットワークとは？

- 一、カヤネズミ保護と生息地の保全を目的とする調査研究活動
 - 二、里山や河川敷に暮らす野生動物と人間生活の関わりを考え、自然環境の保全や生態系への理解を深めるための普及・啓蒙活動
 - 三、行政に対する、自然環境・生態系への負の影響を押しやる方策の提案・提言
 - 四、一〜三のための情報交換
- 全国カヤネズミ・ネットワーク(略称カヤネット)はカヤネズミ保護を基本理念として、河川敷や里山など人間生活に近い環境にある生物の保護と生息地の保全を進めることを目的として2001年7月に設立されました。会員は専門家だけでなく、学生や一般のナチュラリストまで幅広く構成されています。

MOB. SOE. NCBIに続く国際的人気グループ
KAY48ついに始動!!

初音のデビューソング
**ポニーテールと
ちょこちょこ**

初回限定盤!!
選抜メンバー11人
参加CD付!!

近日、ファンクラブ開設予定!!

販売未定

カヤネットはKAY48を応援しています

Youchube 再生100万回以上の
「神」動画!あなたはあの芸術的
傑作を見たか?

祝!カヤ巻きW杯でしこカヤチュウ初優勝!
あの「ドイチユの奇跡」を密着取材
衝撃の特別付録!

業界賞!栄誉満点!チユウシンの青汁
ヨシ、イネ、パツなど絶品食材満載!

購読者さん50%、送料50%返還給戻お手紙を!

販売未定

月刊募人

創刊号

鳥さん、学位取得おめでとう!あれっ、アイツは...
KPOPからついにKAYA来日!
チユウシンのデビューソング「ポニーテールとちょこちょこ」が話題!
カヤネズミ大健闘!
2011夏筆記念げっ 蘭類総選挙12位
国内種では3位にランクイン!(明石屋〇んま除く)
カヤネット新サイト発見か!続々と関係者が集まる某湖国研究室

帰ってきた
ファン必見級とじ!!
KAY48大胆告白!
萩原で「会いたかった」

全国カヤネズミネットワーク近年の活動紹介



カヤネズミの子ども 澤邊久美子さん撮影

● イラスト講習会「カヤネズミを楽しく描こう」(講師・いぬいさえこ)2010年2月20日(京エゴロジ1センター・京都市)
 ● 京都新聞に記事掲載(2011年5月1日付)
 ● 国際会議URBIO2010で研究発表(2010年5月18、22日・名古屋市)
 ● 朝日新聞(2010年5月21日付 多摩版)に記事掲載
 ● 「市民調査全国大会」を後援 活動発表(2010年7月3、4日・東京・主催・Zoo)
 ● 東京都レッドリスト2010年度版作成に協力
 ● 第18回カヤネズミ調査会(2010年9月12日・兵庫県猪名川河川敷)
 ● モニタリングサイト100カヤネズミ調査講習会に協力(2010年11月21日・愛媛県東温市)
 ● 第4回桂川クリーン大作戦に協力(2011年2月20日・京都府桂川河川敷主催・桂川流域クリーンネットワーク)
 ● 「モニタリングサイト1000」里地調査現地見学会&発表会&サイト間交流会に協力(2011年2月26、27日・福井県中池見湿地)

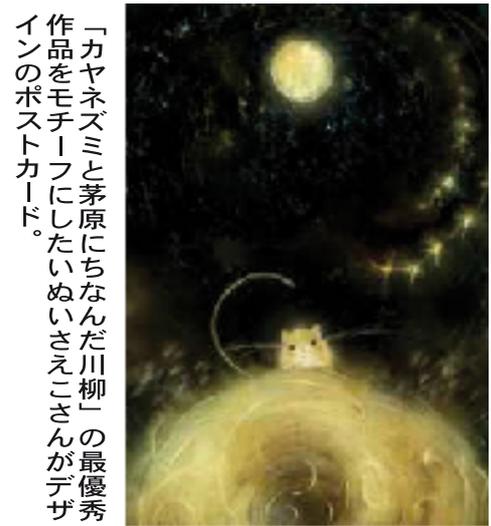
この人に聞け!

今回は大学生時代にカヤネズミの絵本やポストカードも製作されておられるイラストレーター「いぬいさえこさん」にお話を伺いました。

☆まず、自己紹介をお願いします
 フリーランスでイラスト・デザインの仕事をしています。こどもの頃より動物と絵が大好きだったことから、高校で日本画を専攻したあと、大学で環境問題の研究をしてきました。大学在学中にカヤネズミと草地の問題を伝える絵本、「くさのみち」を作り、2008年に出版されました。現在は幅広く絵のお仕事をしていますが、環境や動物の問題を、絵やデザインといったメディアで伝えるという事ができたなら素敵だなあ！と思います。また、日々頑張っています。また、ライフワークとして「使うエコ」を伝える「エコ」をコンセプトにした「ヨシ紙ハガキ」など

の制作など、「えとエコ」をテーマに活動もしています。
 ☆いぬいさんのカヤネズミ入会のきっかけは何だったのですか？
 大学の卒業制作で、「カヤネズミの絵本をつくる」を目標に調査をしていたのですが、その時にまず扉をたたいたのがカヤネズミでした。そもそもカヤネズミを知ったきっかけが、代表の島さんへのインタビュー構成で描かれた記事、「ケナフはカヤネズミを救わない」だったため、カヤネズミについて知りたくなりました。ここぞ！と思いました。カヤネズミを描いている時は、どんな気持ちになりますか？
 ☆カヤネズミを描いている草や表情を描く事で、

彼らの体温、ぬくもり、生命のあたたかさを伝えられるよう、ひと筆ひと筆毛の一本一本に神経を配ってます(笑)。カヤネズミはなかなか直接見る事ができない存在なので、絶滅が心配される現状の中でも存在自体人々の意識に上らないという現実があるのではないかとおもいます。だからこそ、生態学的な描写でこんな生き物がある、と伝えるだけではなく、そこにあたたかさや息遣い、「存在」を感じられるものにした方がいい、と思っています。
 ☆乾さんにとってのカヤネズミとは？
 社会・自然の問題と自分をつなぐ場、だと思えます。大学を出てからは、日々の仕事に押されていると



「カヤネズミと茅原にちなんだ川柳」の最優秀作品をモチーフにしたいぬいさえこさんがデザインしたポストカード。

いぬいさえこさんデザインのポストカードはカヤネズミのホームページから購入することができます。収益金はすべてカヤネズミと生息環境の保全活動に充てさせていただきます。



なかなかじつくり環境問題と向き合うという機会や時間がないので、日々再確認させてくれる場所です。カヤネズミは、人が草刈をしてきた文化の中で生きてきた動物なので、人と自然をつなぐ象徴のような存在だと感じています。それと同じで、カヤネズミも私と環境をつなぐ存在になっておりました。
 ☆最後にこのカヤネズミ新聞の読者へのメッセージをお願いします
 カヤネズミに限った話ではないですが、全ての人が特定の生き物の保護のことを考えて、毎日を暮らすのは難しいと思います。環境問題に生き物の保全に関心のある人の中にも、思い入れのある生き物、あまり意識のぼらない生き物、と色々ありますよね。だからこそ最近考えているのは、何気ない日々の暮らしの中、生き物にとってマイナスではなくプラスになるような暮らしができる仕組みが作ればなあ！と思います。そういうことを探したり考えたり、ポトムアップしたり、情報発信していくのが、これからカヤネズミメンバールとして私にできることかなと考えています。生き物のために身近にできる事、一緒に探していきたいですね。

茅声鼠語

▼全国カヤネズミネットワークが誕生して十周年を迎える。日本でも、世界でも小さな活動の一つの節目となった。そんな十周年の年は、おそろしく大きなカヤネズミをとりまく大きな活動の、日本国内にとっても忘れられない年になった。生きているという自然の中、生きていくことをまことに実感させられた未曾有の出来事だ。▼カヤネズミが生息する茅原は、もと安定した環境で文化の中で生きてきた動物なので、人と自然をつなぐ象徴のような存在だと感じています。それと同じで、カヤネズミも私と環境をつなぐ存在になっておりました。
 ☆最後にこのカヤネズミ新聞の読者へのメッセージをお願いします
 カヤネズミに限った話ではないですが、全ての人が特定の生き物の保護のことを考えて、毎日を暮らすのは難しいと思います。環境問題に生き物の保全に関心のある人の中にも、思い入れのある生き物、あまり意識のぼらない生き物、と色々ありますよね。だからこそ最近考えているのは、何気ない日々の暮らしの中、生き物にとってマイナスではなくプラスになるような暮らしができる仕組みが作ればなあ！と思います。そういうことを探したり考えたり、ポトムアップしたり、情報発信していくのが、これからカヤネズミメンバールとして私にできることかなと考えています。生き物のために身近にできる事、一緒に探していきたいですね。